

今回は福井からオンライン！「世界に誇る日本の紙」

～他の紙とどこが違う？和紙の魅力を再発見！～

2021年9月19日（土）実施 第一支部研修終了報告

JGA 第一支部では、この度、杉原 吉直（すぎはら よしなお）氏を講師として招き、研修『「世界に誇る日本の紙」～他の紙とどこが違う？和紙の魅力を再発見！～』を開催しました（13:30～16:00）。



杉原氏は、明治4年創業の越前和紙問屋「杉原商店」の社長であるとともに「和紙ソムリエ」「和紙キュレーター」としても知られ、世界に向けて和紙の魅力を発信されています。JGA 研修としては2015年、2017年、2019年にもご講演いただいております。今回で4回目です。福井県の杉原氏の「和紙スタジオ」からご講義というかたちでオンライン開催しました。

ライブ配信に参加したのは35名（正会員27名、非正会員5名、委員3名）、オンライン開催の良さを活かして各地からご参加いただき、和紙の産地、福井県からの熱い講義に熱心に耳を傾けました。

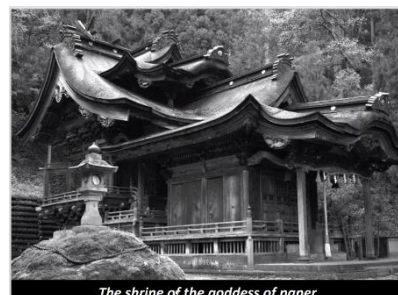
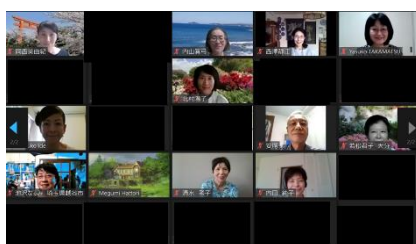
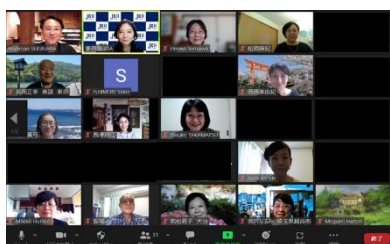
まず、スライドで写真や地図を見ながら、和紙の基礎知識とともに越前和紙の立ち位置を学びまし



た。現在、和紙に携わる職人（和紙漉伝統工芸士。人間国宝を除く）は全国で66名おり、そのうち29名が越前和紙に携わっています。和紙といえば世界遺産としても知られていますが、登録されているのは本美濃紙、石州半紙、細川紙など一部であり、杉原氏によると、産業として成り立っている越前和紙は登録の対象になりにくいということでした。

和紙の歴史としては、日本人が、歴史的に和紙を使って様々な工夫を凝らしてきたことを学びました。法隆寺に残る「陀羅尼経」は、世界最古の印刷物として、和紙の歴史の奥深さを現代に教えてくれます。また、戦国時代には越前和紙は「奉書」として武家社会のコミュニケーションにおいて重要な役割を果たし、越前には「銀座」ならぬ「紙座」があったことも明かされました。また、今年の大河ドラマに関連して、お札と越前和紙との関係についても触れていただきました。

杉原氏の国境を問わない幅広い知識に終始圧倒された2時間半でした。様々な角度から和紙の魅力に触れることができました。「ぜひ和紙を持ち歩いて、和紙の良さを広めてください」通訳案内士へのメッセージとしていただいた言葉には、和紙の益々の発展を願う杉原氏の熱意が込められていました。



The shrine of the goddess of paper